

佛英蘭軍法會議略



114  
A 4357



佛朗西軍法會議考略

千八百五十七年五月九日立定ノ陸軍律ヨリ抄譯ス

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

佛朗西ニテハ其本地ヲ六軍管ニ分テ而シテ此一軍管ヲ數個ノ師管ニ分シ其師管總テ二十ニアツテ全國ヲ分轄ス之ヲ原名チ井シオシテリトパール譯シテ師疆ト云フ一師ノ管スル所ノ師疆ノ延袤ハ大率本邦ノ二三州ニ抵ル此師疆毎ニ軍法ノ裁判所ニ個所ヲ設ケ其一ハ原名コシセイルド・ド・ゲイル・ペルマナン譯シテ常任軍法會議ト云フ其一ハ原名コシセイルド・ド・レ井シオシ・ペルマナン譯シテ常任再檢會議ト

大正十一年

云フ此會議ハ軍法會議ニテ罪犯ヲ處讞シタル時本犯其裁  
斷ニ服セス自ラ冤罪ナリト思フ時ハ再檢會議ニ出テ辯白  
セシメテ請ヒ尚糺覈ヲ歷テ至當ノ罰ニ處セラレシメテ  
フノ權ヲ有スル者ナレ故ニ此會議ヲモ設ケ置リテ也  
一常任軍法會議ハ其官負危之如シ

大佐 或中佐 首座一人

大隊長 少佐裁判官一人

大尉裁判官二人

中尉裁判官一人

小尉裁判官一人

下士官一人

以上裁判官六人首座一人

欽差按察使 原名コミンセルラムベリアル 一人

報告使 テッポウテケル 一人

書記官 一人

右ノ内欽差按察使ハ控訴ヲ受取り訴訟ニナルヘキ筋ト軍

法ノ罪犯ニ相違ナキトテ辨別シ愈訴訟ニスヘキ罪犯トカ  
 争訟ニナルヘキ事件トカ見極ハメタル時ニハ訴状ヲ造リ  
 裁判官ニ出シ本犯糾問ノ上處決セシムルナリ報告使ハ本  
 犯犯法ノ事ニ就テ彼此關係ノ人々ニ聞繕ヲナシ見届人等  
 ヲ探索スルヲテ司リ書記ハ専ラ書記ノミニ任スナリ此按  
 察使以下ハ員ヲ代任ノ人一人若クハ兩人宛定メ置テ所方  
 差合ノ時間ノ欠ヌ様ニスルナリ

一 首座并ニ裁判官ハ各師疆管内ニテ現役ニ服スル者ヲ命

シ置クナリテ六個月月ニ次ノ番ト交代スルナリ但レ其將校  
 退職スレハ六個月ヲモ待タス又欽差按察使報告使ハ現役  
 ト退職後トニ拘ラス上將大尉若クハ會計監督ニ三等ヨリ  
 取ルナリ是ハ皆永年ノ在職ト見ユ 其代任ハ各師管内ニテ現役ノ士  
 官ニ命シ置クナリ也

一 首座并ニ裁判官ハ其師管ノ司令長官即中將ヨリ命スル  
 ナリ但レ大佐以上ノ官人犯罪アル時ハ別ニ裁判官ヲ立ツル  
 ナリ此時ハ陸軍宰相ヨリ命スルナリ又欽差按察使并

二報告使ハ陸軍宰相ヨリ命スルコトニテ若シ其師管ノ内ノ  
 現役ノ將校ヲ任セント欲スル時ハ其師管ノ中將管内ノ將  
 校然ルヘキ者ヲ目錄ニ作り宰相ニ呈上シテ其内ニテ撰擢  
 シ陸軍宰相ヨリ命スルナリ又此按察使報告使ノ代任ハ其  
 師管ノ中將ヨリ命シ置クコトナリ又書記官并其代任ハ會計  
 官ノ例中ニ存シ其規則ニ從ツテ取ルコトナリ  
 一石ノ如ク各師管ノ首當アル地ニ裁判所ヲ設ケ罪犯訴訟  
 アル毎ニ會議處決セシムル事ナレバ罪犯ノ位階ノ高下ニ

依テハ右ノ人員ニテハ判決ス可ラサルコトアリ此時ハ次ノ  
 表ニ準シテ裁判官ヲ命スルナリ

罪人ノ位階	首座ノ位階	裁判官ノ位階
曹長 <small>權曹長軍曹</small> 伍長 <small>兵卒</small>	大佐又中佐一人	少佐一人 大尉三人 中尉一人 小尉二人 下官又
小尉	大佐又中佐一人	少佐一人 大尉三人 中尉三人 小尉二人
中尉	大佐又中佐一人	少佐一人 大尉三人 中尉三人
大尉	大佐一人	中佐一人 少佐三人 大尉二人
少佐	少將一人	大佐三人 中佐二人 少佐二人

中佐	少將一人	大佐四人 中佐三人
大佐	中將	少將四人 大佐三人
少將	大將	中將四人 少將三人
中將	大將	大將三人 少將一人
大將	大將	陸軍大將或海軍大將三人 中將三人

一其師管内ニ右ノ表ニ準スル將校足ラヌ時ハ師ノ中將罪人ト同級ノ者カ或ハ一級下タノ者ニ命スルヲ得ヘシ又中將或ハ大將ヲ吟味スルニハ大將ノ内ニテ席順ノ上ノ者ヨ

リ命スヘシ但陸軍宰相別ニ考ヘアレハ格別ナリ又首座ヲ命スルヲハ必ス其ノ表中ニ示スカ如クシテ上下級ノ者ヨリ命ス可ラス又大將ヲ吟味スル為ニ別段ニ軍法會議ヲ起ス時大將ノ員數不足ナル時ハ海軍大將ヨリ取ルヘシ此時ハ欽差按察使ノ職務ハ中將ニテ報告使ノ職務ハ少將以上ヲルヘシ

一會計監督醫官藥劑官馬醫總テ此等ノ官モ其階級ヲ照シ右ノ表ニ準スヘク又其罪犯多人數ニテ級次種々ナル時ハ

其罪犯ノ内上級ノ者ニ準ヌヘシ右ノ如ク裁判官ノ級次ハ  
 罪人ノ位階次第ニテ異ナルトナレトモ檢察使報告使ハ大將  
 ノ罪犯ノ時ナラテハ異ナルトナラテ常時ハ或ハ罪犯ヨリ少  
 シ下級ニテモ妨ナシ欵差檢察使一事件ノ吟味ノ為ニ別段  
 ノ命ヲ受ル時ハ代任ノ人ヲ助手ニ使フヘシ  
 一戰時又ハ戰争後ニテ捕虜ヲ吟味スル時モ軍法會議ノ立  
 法ニ異ルコトノ庸因ノ階級ヲ右ノ表ニ照スヘシ若シ又平戰  
 ノ時モ軍人ト共犯ノ者アリテ軍法會議ニ呼出ス時ハ其者

ノ首犯タルト從犯タルトヲ論セス共犯軍人ノ位階サヘ高  
 キコトナクハ其平民何等ノ官タリモ平常ノ議列ニテ扱フヘ  
 シ  
 一各師管ノ中將部下諸隊ノ長官ノ書上ノ目錄ニ依テ管内ノ  
 將校下士階級毎ニ停年順次ニ從ヒ表ヲ作り軍法會議ヘ出  
 坐スヘキ順次ヲ定メ置キ交代ノ時毎ニ改正ヲ加ヘ又此表  
 ノ寫帖ヲ軍法會議ノ書記官ノ所ヘ兼テ送り置クヘシ總テ  
 大尉以下ノ官ハ其入隊年月ノ淺深ニ準シテ順次ニ會議ノ

列トナルヲナリ但其師管中將別ニ考マル時ハ別段ナリ  
 一會議ノ首坐并ニ裁判官病氣其外ニテ不意ニ故障出来  
 時ハ師管中將預メ前ニ作リタル表面ヲ點檢シ同級ノ士  
 官カ或ハ下級ノ者タリモ命シ置クヘシ欽差按察使報告使  
 書記官并ニ各官ノ代任ノ内ニテ故障不參ノトアレハ師管  
 ノ中將亦其代ヲ命シ置クヘシ若又其師管内三佐三將ノ官  
 表面ニ準スル文ノ人真ナキ時ハ陸軍宰相其最近ノ師管内  
 ノ現役ノ佐將官ニ命シ置クヘシ

一軍法會議ノ列ニハ生米ノ佛朗西人又他國産ニテモ免許  
 ノ上佛朗西人タル者ニテ歳二十五以上ニ非レハ命スヘカ  
 ラス親族叔父従子以上ノ續ニハ共ニ裁判按察報告書記  
 ノ官タルヲ得ス又右ノ諸官モ其罪犯ト三従兄弟マテノ續  
 アルカ又ハ訴人トナリ或ハ證據人ト申立ラレ又其月ヨリ  
 五個年以前ノ内ニ罪犯ニ對シ訴人ノ味方ニ出マトアルカ  
 又ハ以前其事件ニ就テ經理官或ハ裁判官トナリシコアレ  
 ハ出坐ヲ許サス



一 欽差按察使并ニ報告使ハ其任ニ就ク前ニ其師管ハ中將ノ手ヘ次ノ誓文ヲナスヘシ

余國家ノ制度ニ服従シ帝王ニ忠實ヲ盡サント誓フ

一 常任再檢會議モ大凡軍法會議ト同シトニテ其人貞

少將首坐一人

大佐或中佐二人

少佐二人

欽差按察使一人

書記一人

一 其按察使ハ三佐若クハ會計下監督ヨリ任シ若シ事務繁多ナル時ハ代任ヲ取ルコトヲ得ハシ其軍法會議ニテ首坐ヲ勤メタル者中將若クハ大將ナル時ハ再檢會議ニテモ中將若クハ大將タルヘシ此時ハ少將ハ裁判官ノ列ニ就キ而シテ少佐ノ中一人年功少キ者カ若クハ年功同一ナル時ハ年齢少キ者裁判ノ事ニ任セサルヘシ又此會議ニ列スルハ年齢三十以上タルヘシ其他ハ一ツモ軍法會議ニ異ナルコトナシ

一右ハ佛朗西ニテ平和ノ時二十二師疆ヲ分ツテ軍法會議  
ト再檢會議トヲ常任トシテ置クノ設ケナリ然レ戦争ノ際  
ニ臨ンテ衆師ヲ合シ一軍ヲ興シ或ハ三軍ヲ興ス時ハ多少  
ノ變革ヲ要スル者ニテ其一師毎ニ軍法會議ニケ所ヲ設ケ  
又其一軍若クハ三軍ノ首營アル地ニ一ケ所ヲ置クニテ  
書記官ナトモ其軍中ノ將校下士ヨリ取リ裁判官ノ階級モ  
人負不足ナル時ハ三人迄ハ罪犯ヨリ下等ニテモ苦シカラ  
ヌナリ又再檢會議ハ其首營アル地ニ一ケ所ヲ置クニテ

テ併シ若シ入用ナラバ其他ニモ置キ人負不足ノ時ハ首坐  
共ニ三人ニテ大中佐ニテ首座ヲ勤メ少佐二人ニテ裁判官  
ヲ勤メ大尉ニテ按察使ヲ勤ムナリ然レ如何ナル時ニテ  
モ首坐ノ位階ハ罪人ノ位階ニ下ルヲ得サルナリ又其出  
師ノ地方ニテ素ヨリ師疆ノ西會アル時ハ別ニ軍ノ為ニ設  
ルニ及ハス其儘ニテ軍ニ屬スルナリ又分軍ヲ出ス時ハ其  
分軍ニモ會議ヲ附スルナリ  
一國內ノ一二州若クハ一邑一郡一城ニテモ圍攻ニナスヘ

キ由ヲ申明シタル時ハ亦軍法會議ニケ所再檢會議ハケ所  
ヲ置クコナリ然レ其州内ニ平常師疆ノ會議アレハ共會議  
ヲ勅命ニテ其州内若クハ邑内ニ移シ其官員ヲ其軍ノ司令  
長官タル將官ニ統屬セシムヘシ而メ其拜除ハ爾來其將官  
ノ權ニアルコニテ誓文モ其將官ノ前ニテナスヘシ此時若  
現役ノ將校中ヨリ人真ヲ充レニ不足ナラハ退職後ノ人ヲ  
モ用フヘシ

一軍ヲ起シ外國ノ疆内ニ駐ル時ハ大緝捕使ガラングレ緝捕使ブレニ軍法

處決ノ權ヲ委スルコニテ此時ハ兼テ陸軍法例ニテ本務ト  
スル風憲緝捕ノ事ノミニ拘ラス法律ニテ定メタル限内ニ  
在テハ軍法判決ノ權ヲ得其大緝捕使身親ラニテモ或緝捕  
使ヲ使令スルレ其軍ノ在ル地疆内ニ於テハ兩翼前後軍共  
ニ其所轄ニ屬シ各緝捕使ハ軍中ノ各師各分軍ニ附屬シテ  
各定限内ノ罪犯ヲ處置ス大緝捕使緝捕使共ニ邏兵隊ノ下  
士兵卒ヲ取ツテ其書記ヲ司ラシム

英吉利軍法裁判所考略

千八百六十三年ノ軍法袖珍書原名マニ  
子モオスミリテリヲウヨリ抄譯

英吉利ノ軍法裁判所ハ原名コールト・マルシエルト云フ其  
總裁ヲジェーシ・アドラケート・ゼ子ラルト云フ保訟判官總裁  
ノ兼ナリ此官ハ蘭頓ノ在住ニテ總テ軍法ニ關係シタル事  
件ニ就テ公ケニ國王ノ高議ニ供スル官人ニテ大抵議院平民  
房ノ列タル法學士ヨリ命セラル、例ナリ就職ノ時ニ樞密  
會議ニ於テ誓詞ヲナシ總テ事務ノ取扱ハ此會議ニ属スル  
ナリ總テ國內ノ各軍法裁判所ノ處罪ノ事件ハ罪状ヲ申シ

附ル前ニ先ツ保訟判官總裁ニ伺書ヲ差出スヘシ此官ニテ  
検査ヲ遂ケ其取扱ヒ法則ニ準シタリヤ否ヲ改メ而之ヲ國  
王ニ奏聞シテ其許可ヲ受ル也此時其事柄ニツキ必要ナ  
リト思フコアラハ尚自己ノ了簡法律、其ノ條ニ當ル云々  
ヲモ附奏スヘシ  
一保訟判官總裁ハ軍法裁判所ハ自身出席スヘシトハ雖モ  
事務繁キヲ以テ國內ニテハ或ル官人ヲシテ代理セシメ國  
外ニテハ其軍兵ノ在ル所ハ一官人ヲ遣ハシ代署セシム此

官人ヲ國內ニテモ國外ニテモオツヒシエーチン・ジュージ・アトラケート  
譯シテ代署保訟判官ト云フ軍法總裁所ニハ何レノ地ニテ  
モ此保訟判官若クハ代署保訟判官ナシニハ訴訟事ノ處置  
ハナラヌ也此保訟判官ハ素ヨリ文官ニテモ妨ナキナ  
レ凡舊來ノ風習ニテ武官ハカリニ限リタリ

一保訟判官ハ舊時ハ罪犯ヲ吟味スルノ任ナリシカ輓近ハ  
全ク之ヲ止メ罪犯ヲ吟味スル方ニモ関カラス又平日ノ主  
保ノ如ク罪人ヲ保護スル方ニモ與カラス中間ニ立テ雙方

ノ不便利ナキ様ニ取扱フヘシ其罪人ニ對シテモ別段保護  
ヲ加フルニ及ハサルナレ凡其罪人事ヲ知ラス或ハ事ニ  
熟セス或ハ其事ニ堪エサルヨリ不都合ニ及ハサル様ニ注  
意スヘキナリ又保訟判官ハ罪人ノ口書ヲ取り集會ノ時限  
延引ノ日限事濟ノ譯柄又其中間ニ出来タル偶然ノ事ナト  
ラ明細ニ記注シ置クヘキナリ

一保訟判官ハ裁判官ヲ集ムル時ニ之ト相談ヲナシ總テノ  
引廻シナト心得ヘキ耳ナラス法律ニ觸レ又様ニ吟味裁判

ノ式ニ違フナキ様ニ注意スヘシ然レ裁判官ノ判断ハ其  
相談ヲ是非用フヘシト云フ義理ハナケレハ判断ハ自己ノ  
所見ニ任セテ實意ニ解決シ軍法ノ王意ヲ失ハ又様ニスヘ  
シ又保訟判官ハ自己ノ説ヲ記載スル丁ヲ許サレサルナリ  
一保訟判官ノ務ハ吟味ノ前ニ預メ問題ナトノ備ヲナシ吟  
味ヲ為シモ又罪人ニ申シ開キヲナサシムル為ニモ必要ナ  
ル證人ヲ呼出シ又囚人ニ吟味ニ出ツヘキ時限場所ヲ知ラ  
セ又預メ其罪犯ニ對シテノ訴狀ノ寫ト并吟味ニ出ツヘキ

證人ノ目錄ヲ送り間ニ合フ様ニ取リ計ラフヘシ

一英吉利ノ軍法裁判所ハ大小凡ニ六通アリ

其一 軍法総裁判所 是ハ將官ノ會議也

其二 分軍総裁判所 是ハ外國ハ分軍ヲ出ス時其地ニ設クル將官ノ會議也

其三 地方守衛場裁判所

其四 聯隊大隊預備隊裁判所

其五 小分軍ノ裁判所 是ハ地方ハ聯隊以下ヲ分軍ニ出ス時

其六 擊鼓裁判所 是ハ陣中ニテ不時ニ裁判官會議ヲ起スナリ

一右ノ内総裁判所ハ將校十三人ヨリ少カル可ラス尤地方  
 ニヨリ七人五人モアリ五人ヨリ少キハナニ分軍ノ総裁判  
 ハ將校三人ヨリ少カル可ラス地方守衛場裁判所ハ七人ヲ  
 常トシ五人モアリ三人ヨリ少キハナニ下士ノ罪犯ニハ同  
 隊ノ者二人迄苦シカラス餘ハ他隊ヨリ取ルヘシ又大尉ヨ  
 リ下級ノ者ハ許サス聯隊大隊預備隊小分軍ノ裁判所ハ五  
 人ヲ常トシ人不足ナルハ三人ニテモ可ナリ然モ其隊ノ司  
 令長官ハ列タル可ラス擊鼓ノ裁判所ハ定リナニ

一裁判所ノ首座ハ裁判官ノ會議ニテ撰舉スヘシ然モ分軍  
 総裁判所ノ外ニハ會議ノ列ヨリ取ル可ラス又訴狀ヲ取扱  
 フ人ヲ任ス可ラス下士官ノ吟味ニハ総裁判所ニテモ地方  
 裁判所ニテモ其首座ハ大佐以下大尉以上タルヘシ但分軍  
 ノ総裁判所聯隊兵ニ小分軍ノ裁判所進軍ノ時或ハ船中ノ  
 時又大尉ノ居合サハル地ナドハ此例ニ非ラス  
 一軍法裁判所ノ諸列ハ皆其階級ニ準シテ出席シ首座ノ許  
 可ナクシテ自身ヨリ出席ヲ止ム可ラス首座ハ調了リノ上

ニテ會議ヲ止ムルノ權ヲ有ス若シ議列ノ内ニテ不相當ナル言語ヲ用フル者アル時ハ書記ニハ載セサル様ニ軍法裁判所ヲ起セル官人ニ其旨ヲ報告スヘシ總テ證人ニ對シテモ囚人ニ對シテモ罵詈ノ語ヲ用フ可ラス而列座ノ諸人ニ相應ノ禮ヲ以テ取扱ハシムル丁ハ首座ノ任ナリ

一英吉利國內ニ軍法裁判所ヲ置ク丁ハ兼テ國王ヨリ親署鈐定ノ命書ヲ受クヘシ又分軍ノ司令長官其小軍隊ノ司令長官モ裁判官ヲ集會セシムル為ニ亦親署ノ免狀ヲ預メ領

シテ出ツヘシ然レ三佐マテノ官司令長官タレハ此免狀ヲ受ルヲ得ヘシト雖レ大尉以下ハ此權ナキヲ常例トス然レ右レ孤軍懸絶ノ地ニ在テ三佐ノ官ニ大尉司令長官タル時ハ其大尉ニ地方守衛場ノ軍法裁判官ヲ集會セシムルノ權ヲ上ノ例ニ準シテ假スヘシ  
一上ノ例ニ準シ國外所領ニ在ル三將ノ司令長官ニハ軍法總裁判所ヲ置キ若クハ地方守衛場ノ軍法裁判官ヲ集會セシムルノ許可ヲ與ヘ又餘儀ナキ時ハ他ノ將校ヲシテ已



代任セシメ保訟判官ノ所勞不在ノ時ハ其代任ヲ命スル  
ノ權ヲ假スルナリ

一 聯隊大隊預備隊ノ軍法裁判官ヲ會スルハ別段ノ特命ヲ  
待タス其司令長官ヲ命スルハ會合ヲ催スル權モ從テ其内  
ニ在リ又分軍ノ總裁判所モ同様ニテ其地ニテハ總裁判所  
ヲ建ルコトハ出来難キ故ナリ

一 總裁判所并ニ地方守衛場ノ裁判所ハ諸種ノ隊ノ將校ヲ  
取ルコトヲ得ハシ辭ハハ大砲隊築造隊水兵隊參謀部將校等

ナリ地方守衛場ノ裁判所ハ兵卒ノ會議ニ全ク同隊ノ  
將校ガリニテ可ナリ是ハ其將校ノ名前ノ順番ヲ表ニ作り  
其順ニテ平押シニ諸役同クハ勤メシムルナリ

一 若シ軍法裁判所陸軍ノ將校ガリヨリ或ハ水兵ノ將校  
カリヨリ撰任ニナリタル時ハ其之ヲ集合セシメタル將校  
ノ陸軍ニ屬スルト水兵ニ屬スルトニ拘ラス何レニテモ此  
兩軍ニ屬スル人ヲ吟味スルヲ得ハシ唯其裁判ノ法ハ四  
大陸軍ナラハ陸軍水兵ナラハ水兵各自ノ定例ニ從フ

ハキ耳

一聯隊參謀部ノ將校モ裁判所ノ例トナルヲ得ヘシ然モ  
首座ハ何時ニテモ他ノ隊ノ相逐敵スルモノタルヘシ又陸軍  
ト後備軍トノ將校一同ニ裁判所ニ列スハカラス但外國  
ノ居留地ニテハ格別ナリ

一諸種ノ隊ノ將校裁判ニ列スル時ハ其拜命ノ先  
後ニ從ヒ若シ拜命ノ日數人共ニ同日ナル時ハ前役ノ  
先後ニ定ムヘシ

拜命

荷蘭軍法裁判所考略

千八百六十二年官算曆并二千八百六十二年手軍律書ヲ抄譯

荷蘭ノ地ハ七軍管ニ分テ管毎ニ少將ノ總督アツテ管内  
ノ兵務ヲ統轄シ其下ニ地方令官ノ大佐并ニ管州副官  
ノ少佐アツテ部下ノ聯隊ヲ統轄ス又右ノ七管毎ニ採聽官  
原名アウゲチウル・ミリテイルト云フ官アツテ專ラ軍人罪  
犯訟訴ノ事ヲ司リ總テ訴訟ニナルヘキ筋カ軍律ニ  
扱フヘキ筋カヲ辨別シテ總督ヘ申シ立ルヲナリ總督之  
ヲ受ケテ二千四字内ニ軍法會議ヲ起スルヲ命ス其

大文

會議ヲ起ス地ハ或ハ總督ノ首營アル地ニテモ或ハ其他  
 其罪犯アル最寄ノ地ニテモ預メ國王ヨリ定メ置クコトニテ  
 會議ノ列ハ首座ニモ七人タルヘシ首座ニハ三佐ヲ命ス  
 ルヲ例トス然レ其地方ノ司令長官ノシニテ別ニ三佐  
 ナキ時ハ大尉ヲ命スヘシ唯他ノ管ヨリ取ルコトハ旅手  
 當逗留手當ニ就テ禁制ノ然レ三佐會議ニ臨サル  
 時ハ度毎ニ其仔細ヲ大法院ニ届クヘシ又首營ノ地ニ  
 テナク最寄ノ地ニ會議ヲ起ス時ハ總督ヨリ其地方ノ守衛場

司令長官ニ命シテ起サシムルコトヲ得又其會議ノ列ハ其地方  
 守衛場ノ諸種ノ隊ノ將校ヨリ命シ若シ人負不足ナラハ退食  
 料ヲ受ル將校ニモ任スヘシ併取締隊ノ士官ハ除クヘシ若シ  
 取締隊ノ人負其罪犯ニキキ入用ナル時ハ一人ヲ其列ニ命スヘシ  
 然レ首座ニハ命ス可ラス又將校ノ階級ハ大佐ヨリ下士ニテ  
 諸級ニ七人タルヘシ然レ大佐欠ル時ハ中佐ハ少佐二人ニ  
 中佐欠ル時ハ少佐一人大尉三人トナスヘシ其首座議列并ニ  
 採聽官ト互ニ三從兄弟ノ親族ヲ憚ルヘシ又採聽官ハ大

學校ニ法律學ノ允可ヲ受ケタル者タルヘク而シテ六年其職任ス  
ベシ然テ會議書記等ハ此官ニ任スヘシ又首營地ニ管獄  
使原名プロホースト、ゲエルク、一人アリ此官モ一同  
會議ニ次シテ罪犯ヲ呼出シ連返シ證人ヲ呼出シ  
罪状ヲ申渡ス等ノ事ヲ任セシムヘシ故ニ荷蘭ノ  
軍法會議ハ大率十左、ロシ

大佐一人 首座 中佐一人 以下議列 少佐一人 大尉一人  
中尉一人 少尉一人 曹長一人

採聽官一人 管獄使一人

一右ノ軍法會議ニテ判決スル罪犯ハ大尉以下ノ犯罪ナリ  
少佐以上ノ犯罪并ニ少佐以下ノ犯罪アラス凡一都府一城堡等  
ノ司令長官ヲ勤ル者并ニ如何ナル下等ノ者タリ凡少佐  
以上ニ連累スル犯罪ハ會議ニテハ判決セズ軍法大法院ニ  
テ處決スルナリ

一荷蘭ノ軍法大法院ハユトシクトニ在リ其人負左ノ如ク  
首座法學士一人

議列法學士一人

海軍將校 少將大佐アトリ三人

陸軍將校 少將大佐アトリ三人

保訟主理一人 同代任一人

書記官一人 同代任一人

主保十八人 是ハ半公半私ノ者ナリ

緝捕使五人

荷蘭ニテハ國小ニシテ事務纏リ易キ故 軍法大法院ハ

海陸兩軍ニ涉ルナリ故兩軍ヨリ各三人宛 將校ヲ取ルナ

リ又法學士保訟主理書記官并ニ主保ハ各其國ノ三ヶ所ノ

大學校ノ内ニテ明法ノ科ニ入リ及第シテ法學ノ學士號ヲ

允サレタル者タルヘシ

一此大法院ニテハ佛蘭西ノ再檢會議ノ如ク申寃ノ訴ヲモ

判決スルナリ又法學ノ議列首座共ニ并ニ保訟主理書記官

ハ一生涯ノ永任ニテ將校ハ時々交代スル也將校ハ歳三十

以上書記官ハ二十五歳以上タルヘシ其親族ノ續キニテ

ルハキコト誓文等ノ事ハ西洋各國ハ大概同シ振合ナレハ爰  
整セス

業スルニ軍法會議ハ佛英蘭ノ三國ニ其法大同小異

其名目異ナリトイハレ其實ハ首座一人議列數人ヲ

以テ判者トシ加フルニ爰訴ノ官ヲ置テ預メ其事件

ヲ審實辨察シ其事ノ處置決定ニ至ルハ如何ヲ量定

セシメ又書記ト緝捕トノ官ヲ置テ各々事務ニ服セ

シタルノミ唯緝捕ノ事ハ會議ノ本務ニ非サルヲ以

テ或ハ之ヲ書記ニ屬シ其下ニ數人ヲ兵卒ヲ置テ

罪ヲ召出シ送り付ケ證人ノ呼ヒ出シ等ヲ勤メレ

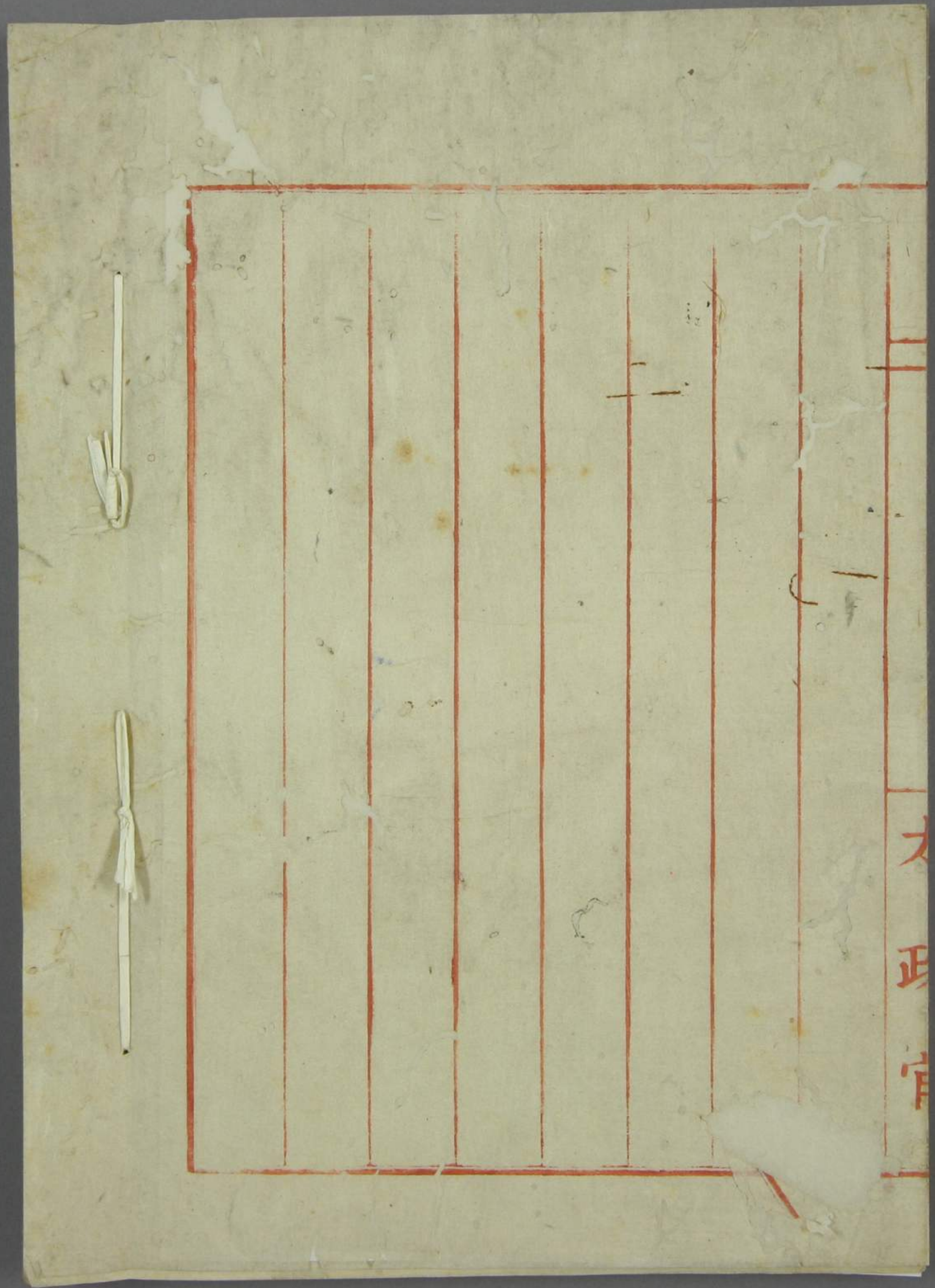
テ是ルヘシ故ニ會議ニ至テハ別ニ無論ナシ唯之ニ  
統括スルノ法ニ至テハ三國各其宜キヲ異ニス佛  
西ノ法ハ各地共ニ會議ニ附シ陸軍宰相府ヨリ欽差  
ヲ發シ之ヲ參察セシム又別ニ統屬ノ府ヲ置カス英  
吉利ハ唯一人ノ保訟判官總裁ヲ置キ宰臣ノ會議ニ  
屬シテ其權ヲ重クシ以テ各地ノ軍法會議ヲ統括ス  
是稍異ナリトスル耳荷蘭ハ則最上ノ法院ヲ置キ海  
陸ヲ合シテ之ヲ總括ス其法元國小ニ事務少キノ故

ニ基クニ要スル刑法事ヲ慎重スルニ由ス故ニ佛英  
兩國ノ欽差按察使報告使書記官保訟判官ノ任ハ多  
ク武官ヨリ取ル而メ荷蘭ハ必ス文臣法學ノ士ニ任  
ス唯英ノ保訟判官總裁ノミ亦荷蘭ニ同シ是三國ノ  
異同大ナルモノ也本邦方今糾問司ハ制略荷蘭ト同  
シ唯其官負ノ數ト權ノ輕重トニ至テハ少ニシテ且  
輕シトス蓋亦當今兵數ノ多少ト相関スル耳然レ  
全ク佛蘭西ノ法ニ倣ハント欲スレバ將校未タ法

二 諳ルセズ英ニ倣ハント欲スレハ其法古習ニ因リ  
 シ畫一ヲ事トセス素ヨリ則リ難シ唯荷蘭ノ法其  
 陸ヲ合スルハ必ス倣ハスト雖モ法院ヲ置テ少佐以  
 上ノ罰並ニ死刑ニ該ル者ハ級ノ高下ヲ問ハズ必ス  
 法院ニ於テシ又別ニ再檢會議ヲ設ケスレテ洗冤ノ  
 道ヲ開キ且參スルニ文官ヲ以テシテ罰ノ至當ヲ要  
 ス亦當今將校法律ヲ學習スルニ餘暇ナキノ時情ニ  
 適ヤリ今姑ク此ニ倣ヒ漸スルニ歲月ヲ以テシ將校

術精シク學富メルヲ待ツテ而後ニ變革シテ以テ佛  
 朗西ノ制ニ倣ラハ、時宜ヲ得ルニ庶幾セン





太  
正  
官